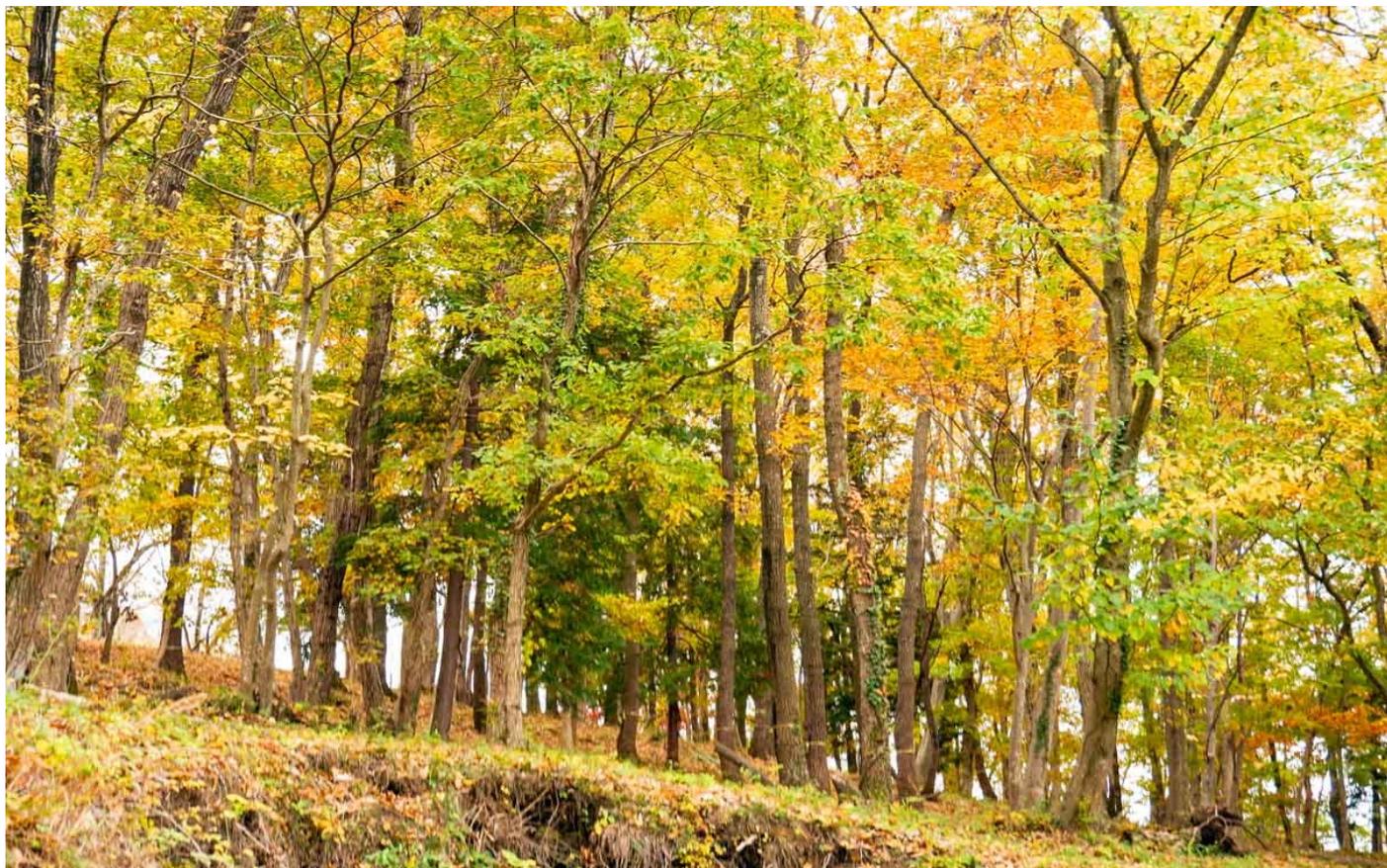


丹沢ボラネット瓦版

2026年3月号 No.125号



秦野市弘法山 コナラを主にする里山の晩秋風景 25.11.29

2025年度 丹沢大山自然再生活動報告会 参加報告

2026年2月15日

丹沢大山ボランティアネットワーク世話人会

1 2025年度のテーマ

「生物多様性保全」てつながる**地域内連携** ～ネイチャーポジティブ時代の里山再生～

昨年度は秦野市や環境団体と連携し取り組みました。今年度は厚木市や神奈川県、NPO法人神奈川県自然保護協会等環境団体と連携をして行いました。

厚木市では、ネイチャーポジティブ実現に向けて生物多様性保全に力を入れており、企業や市民団体と一緒に精力的に環境問題へ取り組んでいます。再生会議はこれらの活動と連携を強め、官民共同での地域発展や環境人材育成へ繋なぎました。

その結果、実のある良い成果が得られました。毎年毎年、丹沢大山自然再生活動報告会
は創意工夫が有り、成果を出して来た事を実感できました。

人も自然も
いきいき 丹沢

2025年度 丹沢大山自然再生活動報告会
公開シンポジウム

参加
無料

どうする里山!?

「生物多様性保全」
でつながる
地域内連携

～ネイチャーポジティブ時代の里山再生～

テーマに関心のある方なら
どなたでも
参加OK!

2026
2/15 日
13:00 ~ 16:00
[12:30受付開始]

会場 アミューあつぎ (厚木市中町2丁目12-15)
7階 ミュージックルーム 2

会場定員 60名 予定 (申込み必須)
* 対面参加の希望者多数の場合、
オンライン参加をお願いする可能性があります。

オンライン参加 定員制限なし (Zoom配信・申込み必須)

第1部 13:00~

基調講演



(公財)日本自然保護協会 理事長 / 東京農工大学 名誉教授

土屋 俊幸 氏

「生物多様性保全の動向と
自然のちからを活かした地域づくり」

話題提供



麻布大学 生命・環境学部環境科学科 教授

村山 史世 氏

「アイナチュラリスト
iNaturalistで生き物観察を
グローバルな生物多様性情報に！」

第2部 14:25~

パネル発表・ディスカッション

モデレーター 秋山 幸也 委員

パネリスト (6名)

厚木市環境政策課

土屋 俊幸 氏

アンリツ株式会社

村山 史世 氏

一般社団法人 森里

糸長 浩司 委員

↑ 写真 見やすく興味を引く内容のポスター



丹沢大山自然再生報告会の様子

2 第1部 13:00～

(1) 丹沢大山自然再生委員会 委員長の勝山 輝男 氏の挨拶がありました。

→写真
勝山会長挨拶の様子



(2) 厚木市長 山口 貴裕 氏の挨拶がありました。

(3) 基調講演 土屋 俊幸 氏の話

- ① ネイチャーポジティブとはどのようなことか？
生物多様性損失の流れを止め、回復の流れに
することである。そのためには、自然が持っている回復機能を利用し、多様な自然課題、社会
課題の解決につなげる、持続可能な社会の考えが大切になってきています。



↑写真 土屋 氏の講演の様子

↑写真 説明スライド

次に「生物多様性に関する世界の動向、日本の動向」、ネイチャーポジティブに関する世界の動向、日本の動向」等について話されました。

② OECM, 30by30、自然共生サイト、NbS (Nature-based Solution)、等の内容や

取り組みの動向の話が有りました。

(4) 話題提供 村山 史世 氏の話

「iNaturalistで生き物観察をグローバルな生物多様性情報に！」

とのタイトルで話題の提供をしていただきました。

目的は地域住民が収集した生物多様性情報を世界の人々と共有することです。

オカレンスデータとはある種が特定の場所・日時に発生した証拠となる資料を観察者名と共に記録したものを言う。今までは大調査等で多大な金銭や多人数をかけていたがiNaturalist等のようにデジタルプラットフォーム利用する事で解決が出来ました。生物多様性情報のオープンデータを皆で共有することが出来るようになりました。

そのためには非営利団体が運営し無料が大切です。

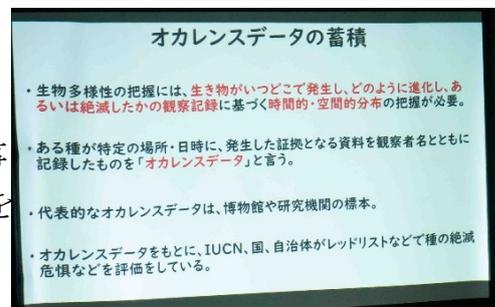


写真 村山氏の話題提供の様子とスライド

3 第2部 14:25

(1) パネルディスカッション

モデレーター 丹沢大山自然再生委員会 事業計画・評価専門委員長 秋山 幸也 氏

パネリスト取り組み紹介

→写真

厚木市環境政策課 石原 竜 氏の発表様子

厚木市の ①生物多様性あつぎ戦略の改訂 ②ネイチャーポジティブへの取組 ③包括連携協定による取組等や今後の予定について発表されました。

- 生物多様性を市民に分かりやすく伝えるため「みんなの生物多様性」冊子に工夫をした。写真を多くし、漢字にルビを振り小学生でも読めるようにしました。
- その他ネイチャーポジティブ宣言、自然体験講座東京農業大学と連携し体験講座、外来種駆除、あつぎ環境フェア等へ取り組みました。

→写真

厚木市連携体験講座の様子



→写真

アンリツ株式会社 阿部 まゆ子 氏の発表様子

アンリツ株式会社の ①会社紹介 ②丹沢大山自然再生活動への参加 ③生物多様性への取組等について発表されました。

- 丹沢大山で植樹活動を行っている。アンリツの従業員とその家族がボランティアとして参加してこれまでに500本以上の苗木を植えました。



→写真

一般社団法人森里 小林 夏子氏の発表様子

- 一般社団法人「森里」の①普及啓発活動②自然環境の再生保全活動③調査・研究等について発表されました。
- ・自然環境に関する講習会や環境教育教材製作を行った。
 - ・環境調査後の自然や生き物の暮らしに配慮して草原、樹木、水源環境の整備を行なっている。
 - ・時間軸を大切にして鳥類標識調査を行っている。



(2) パネルリストおよび参加者による意見の交換

今回は会場参加及びオンライン参加併用のハイブリッド開催なので会場とオンライン参加で活発な討論が交わされました。

若い人たちも多く参加し、中学生まで質疑討議に加わっていました。このように異年齢の世代が全体討論に参加している事により会場は賑わい明るくなった。課題の人材育成にも役割を果たしていました。

→写真 総合討論の様子



全体として毎年工夫があり地域との官民連携があり、繋がりが深化しています。その中で地域の環境教育や人材育成等で丹沢大山自然再生会議が発展している様子が実感できました。大会を運営された皆様方、お疲れ様でした。

丹沢大山ボランティアネットワーク団体からの投稿

季節を変えて歩く、菰釣山～シキリ尾根～世附

Tanzawa Ecology School 奥津岳

昨年の春にシキリ尾根を歩いたことを掲載していただきましたが、昨年11月に「季節を変えて」再び歩いてきました。その時の手記を瓦版用には書きました。

コース 山中湖・平野→甲相国境尾根→菰釣山→シキリ尾根→忍橋林道
→地蔵平→大又沢林道→浅瀬橋→世附 (一泊二日)

2025年11月、晩秋の西丹沢を一泊二日で縦走してきました。

2025年の春、菰釣山からシキリ尾根を下った際、美しい森に深く癒やされ、「季節を変えてまた歩きたい」と感じました。その時の手記は瓦版122号に掲載していただきました。今回は、その思いを胸に、半年ぶりの再訪となりました。

ブナの黄葉には少し遅いものの、丹沢湖方面の紅葉を期待しての計画でした。山中湖・平野から入山し、甲相国境尾根の小ピークを越えて菰釣山へ。

初日は雲が多く、富士山はほとんど姿を見せてくれませんでした。翌朝、その分のご褒美が待っていました。

→写真

御来光で菰釣山も富士山も
紅く染まります。(モルゲンロート)

早朝、菰釣山山頂に立つと、目の前には雲一つない空の下に雄大な富士山！山中湖には白い霧がたなびき、朝日に染まる富士の姿は厳か。少しずつ変わっていく色合いを眺めながら、しばし佇んでいました。

その後下ったシキリ尾根は、人影のない静かな美林。落ち葉を踏みしめる音だけが響く晩秋の森は、春とはまた違った表情を見せてくれました。



↑写真 サクサクと落ち葉を踏みしめながらシキリ尾根を歩きました。



↑写真 地蔵平付近の林道は、まるで紅葉・黄葉のトンネルのようでした。

忍橋林道に下り立ち、地蔵平を経て、大又沢林道へ。辺りはまさに紅葉と黄葉の最盛期でした。西丹沢の奥深い場所で、静かな秋を味わいながら丹沢湖まで歩きました。



写真 地蔵平周辺は過去に何度か訪れた
ことがありましたが、これほどの紅葉
・黄葉を見るのは初めてでした。

↑写真 大又沢の清流の上で、黄金の葉
が風に吹かれて揺れていました。

同じルートでも、季節が変わると景色も、感じ方も大きく変わりますね。丹沢の懐の深さを、改めて実感した山行でした。

「先人が歩いた旧ヤビツ道・旧ヤビツ峠探訪記」 その1 (叢毛～県道70号線まで)

丹沢環境推進会議 ナチュラル丹沢

2026.1.24(土)旧ヤビツ道探訪へ
へ行ってきました。

旧ヤビツ峠は第8鉄塔と第9鉄塔の間、
付近にあります。その間の沢が崩壊
していて通行が困難です。新ヤビツ峠
より、ひと山を登り西側(第9鉄塔付近)
にあります。

→写真
表尾根の案内

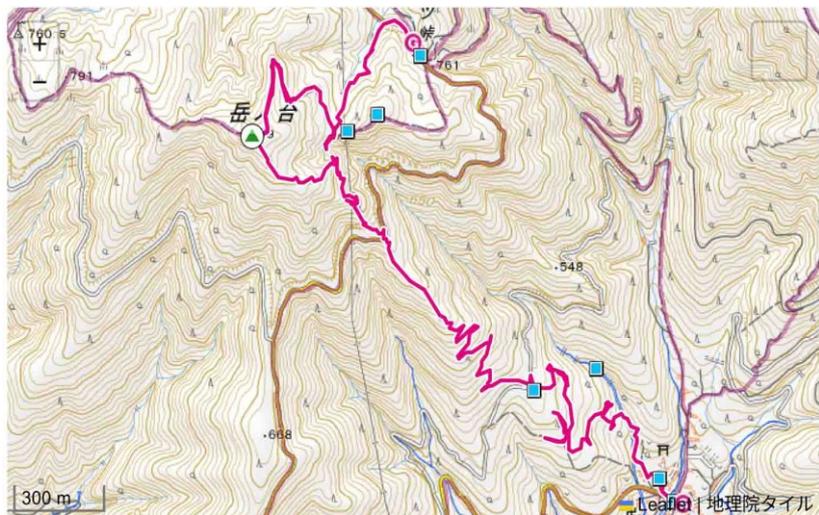


今回の探訪記のコース

叢毛(大日堂)～石祠～県道70号線
～新多摩線 NO8 鉄塔～岳ノ台～
旧ヤビツ峠(新多摩線 NO9 鉄塔傍)
～県道70号線～新ヤビツ峠

→地図の赤線が今回の旧ヤビツ道を
探してたどった跡の経路です。

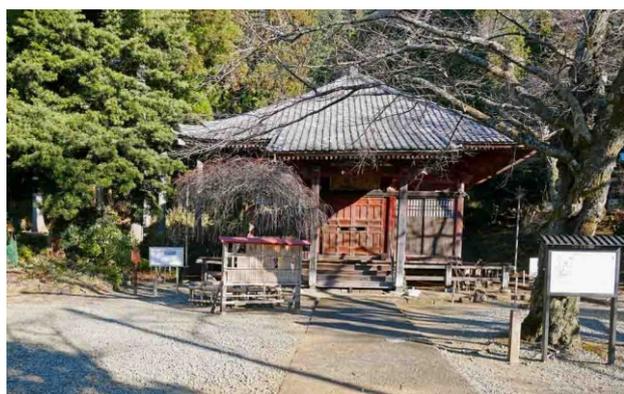
→写真
旧ヤビツ道を探しながら歩いた足跡の
ロードマップ(Tes奥津氏の承諾済み)



大日堂裏の西側から入り棚ヶ入沢(川)東岸を登り、
橋の有るところで西岸に渡ります。

→写真
叢毛に有る法連寺の大日堂

次は地図には載ってないがイガイガさんの記録に
よると石祠が有るので探しました。川から20mぐらい
登ったところで探し当てました。大山祇神社の石祠で



す。まさしく旧ヤビツ道を探し当て安心しました。

→写真 石祠(大山祇神社)

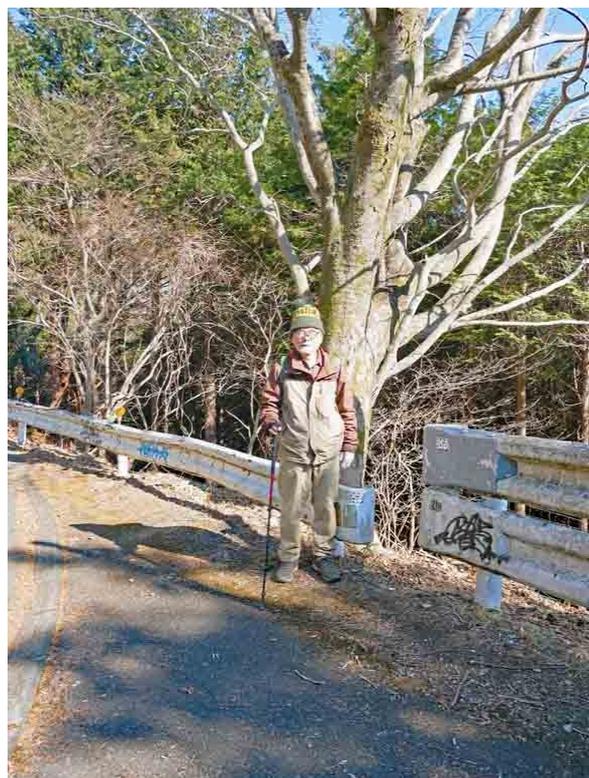


探し出した旧ヤビツ道を登っていくと広い作業道にぶつかり、消えました。ここから先は尾根沿いに広い植林に開拓され、周囲がシカ柵で囲まれ作業道が走っています。



旧ヤビツ道は植林開拓により分断され消えているところが多くあります。旧ヤビツ道は尾根に沿いながらジグザクに曲がり、登っていると思われます。尾根をまっすぐ登れば簡単ですが先人の歩いた旧道の発見が目的ですから、苦勞して探しながら歩きました。

→写真 広い作業道路とシカ柵で囲まれた植林



↑写真 県道70号線へと続く尾根に沿い壊れた使われない金網のシカ柵が続いている

→写真 県道70号線への出口

↓写真 県道70号線への出口から鉄塔No9 (旧ヤビツ峠付近)が見える



金網の古い柵に沿い、狭い尾根を急登すれば間もなく70号線です。以前は粗大ゴミ等の不法投棄が目についたと聞いたが、今回は県民の努力により余り見られなかった。

ここまでは曲がりなりに旧ヤビツ道跡を探しながら70号線までやっと歩くことが出来ました。次号で後半編の「県道70号線～旧ヤビツ峠～県道70号線」案内をします。

この原稿を書くに当たりイガイガ様、奥津様等の資料を参考にしました。感謝いたします。

丹沢ボラネット瓦版2026年3月号(通巻125号)3月5日発行
丹沢 大山ボランティアネットワーク世話人会代表 小林 昭五